

有明工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	数学特講Basic	
科目基礎情報							
科目番号		4Z008		科目区分		一般 / 選択	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		創造工学科		対象学年		4	
開設期		後期		週時間数		後期:1	
教科書/教材		有明高専の数学 第4巻 ; 有明高専数学科編					
担当教員		西山 治利					
到達目標							
1. 3学年次までに学んだ数学の基礎的な内容を理解し、基礎的な計算ができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		3学年次までに学んだ数学の基礎的な内容を十分理解し、確実に計算ができる。		3学年次までに学んだ数学の基礎的な内容を理解し、基礎的な計算ができる。		3学年次までに学んだ数学の基礎的な内容が理解できず、基礎的な計算ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 B-1							
教育方法等							
概要		工学の修得に、数学は必要不可欠です。工学の主たる部分は、数学的記法(新しい数式など)や数学的手法(新しい計算方法など)を用いて展開されるからです。また、工学の問題を解決するための論理的思考形態(筋道を立てた考え方)は数学のそれと類似のものだからです。 この科目の主な内容は、一言で言えば、これまでに学んできた数学の総決算です。複数箇所学んできた事柄を組み合わせで解く問題や大学編入試験のレベルの問題を演習します。したがって、この科目の授業目標は、主として、次のとおりです。 1) これまで学んできた数学の内容(記法・手法)を再確認すること。 2) これまで学んできた事柄を組み合わせたりして、大学編入試験レベルの問題を解けるようになること。 3) 常に、筋道を立てた考え方を行う習慣を付けること。 3)については、たとえば、例題の解法を理解し、その解法を類似の問題へアレンジして適用できるようになることは勿論のこと、新しい数式が専門科目に使われるときにすぐに応用できるようになること、さらに、数学や専門科目などの学問だけに限らず、日常のさまざまな場面でも、新しい数式などが利用できないかと考え続けることも含まれます。					
授業の進め方・方法		この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポート等を実施します。講義形式、グループワーク等による授業および問題演習の形で進めます。また、内容の理解と定着をはかるため、教科書本文中の演習問題あるいは教科書巻末の問題集の演習問題のいくつかを適宜レポートとして解答・提出してもらいます。					
注意点		3年生までに学習した数学の知識を利用しますので、予習をして、利用する知識を準備して講義に臨むように心がけるようにしてください。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	授業の概要説明				
		2週	指数・対数		・ 指数・対数の計算およびそれらの応用ができること。		
		3週	指数関数・対数関数		・ 指数関数・対数関数を含む方程式・不等式が解けること。それらの応用ができること。		
		4週	三角関数		・ 三角関数の性質を利用して、方程式・不等式が解け、等式の証明ができること。		
		5週	逆三角関数・分割された定義域を持つ関数		・ 逆三角関数の計算およびそれらの応用ができること。分割された定義域を持つ関数を正確に取り扱えること。		
		6週	関数の極限、微分法（その1）		・ 関数の極限の概念を理解し、計算ができること。 ・ 様々な関数の導関数が計算できること。		
		7週	微分法（その2）		・ 様々な関数の導関数が計算できること。		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	不定積分（その1）		・ 様々な関数の不定積分が計算できること。		
		10週	不定積分（その2）		・ 様々な関数の不定積分が計算できること。		
		11週	定積分		・ 様々な関数の定積分が計算できること。		
		12週	グラフとその応用		・ 様々な関数のグラフが描け、それらを応用できること。		
		13週	テイラー展開・マクローリン展開		・ 様々な関数のテイラー展開・マクローリン展開が計算できること。それらの応用ができること。		
		14週	面積・体積・曲線の長さ		面積・体積・曲線の長さが計算できること。		
		15週	期末試験				
		16週	テスト返却と解説				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0